

第3回フロンティア分科会（2012年4月2日）

資料2

論点整理メモ

国家戦略会議フロンティア分科会幸福部会

部会長 阿部 彩（国立社会保障・人口問題研究所）

部会長代理 上村敏之（関西学院大学）

何を目指すのか：幸福(Happiness)、希望(Hope)、Well-being

▶ 幸福な社会を目指すのか、希望がある社会を目指すのか

- ▶ 日本の子どもは夢を語らない
- ▶ 「幸せな人は、今の状態が続けばいいと思っている」、「今の若者は、今の状態が続けばいいな」というあり得ないことを思って幸福だが、希望はない」
- ▶ まわりも皆悪くなれば、そこそこ「満足」「幸福」と感じる
⇒「幸福度」を追い詰めると、逆にどんな社会でもあり、となる
- ▶ ニーズの潜在化、引っ込めてしまう傾向というのが人間にはある



- ▶ 希望は、楽天的であり現実的な観測ではない時にも使われる言葉
⇒本当に希望を求めている社会は、大変な社会
⇒希望を**求めている(探している)**社会と希望が**ある**社会は違う？

▶ 「幸福」でも「希望」でもない実質的なWell-being

- ▶ 「幸福がどうのこうのという議論の前に、最低限の貧困層、一番弱い人が貧困状態にないというのが第一」
- ▶ すべての人が人間としての尊厳が保たれていることが重要
⇒貧困の撲滅

中間報告書 目次 (案)

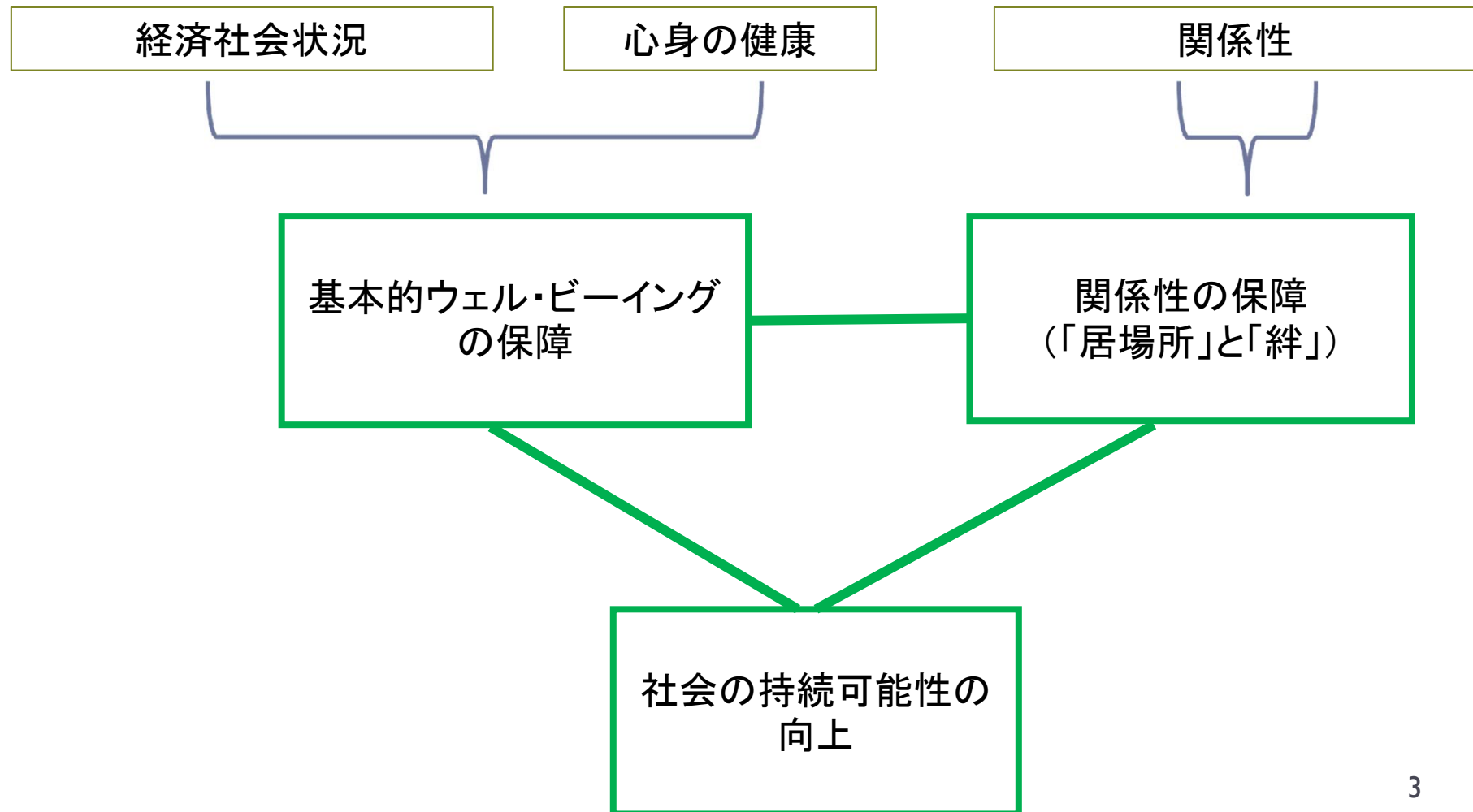
1. このまま進んだ場合の2050年
2. あるべき2050年の姿
 - 1) 目指すべき「幸福」とは
 - 2) 三つの軸 <図>
3. 2025年までに切り拓くべき領域
4. ボトルネック
5. 基本原則
 - ・ 基本的ウェル・ビーイングの保障（貧困の削減）
 - ・ 関係性の保障
 - ・ 社会の持続可能性の向上
6. 政策の方向性

別冊 「2050年のある1日」

シナリオと画像による
「あるべき姿」の提示

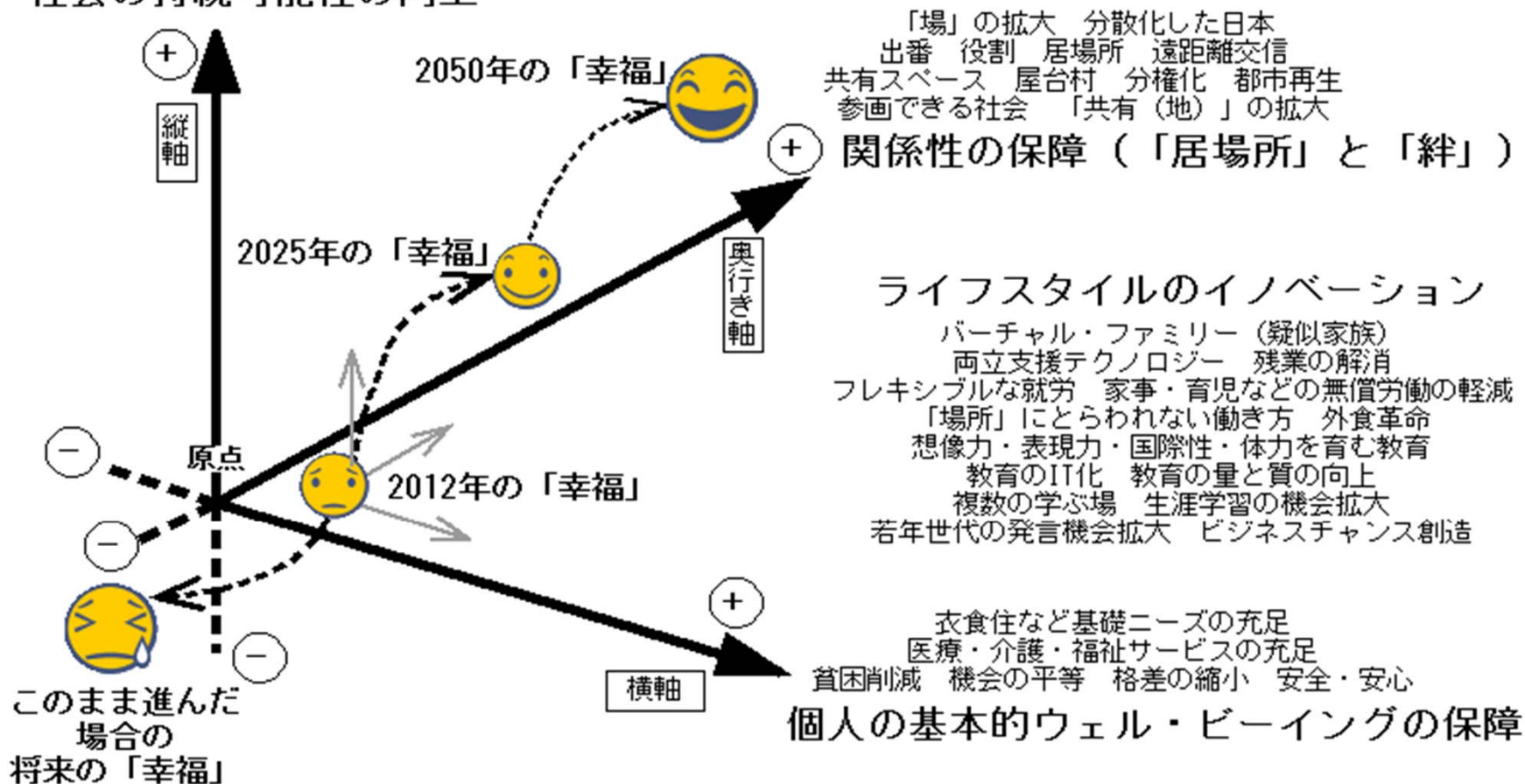
「2050年の幸福の姿」の基本軸

(内閣府幸福度調査の主観的幸福感の規定要因)



2012－2025－2050年の「幸福」のイメージ

社会の持続可能性の向上



基本的ニーズ（ウェル・ビーイング）の保障

（基礎ニーズの充足）

- 住居、食、物質的はく奪、医療・介護・福祉サービス等がすべての人について満たされている

（貧困の削減）

- 世代別貧困率が先進諸国の平均まで削減されている（子どもの貧困率は数値目標）

（機会の平等）

- 子ども期の社会経済状況による、健康、学歴、体験、体力、国際性、創造性、コミュニケーション能力などの格差の解消

（格差の縮小）

- 格差が許容範囲内におさまっており、安心・安全な日本社会が継続している。また、格差社会の弊害の信頼度や健康度の損失が起こっていない。

関係性の保障：「居場所」と「絆」

- ひらかれた「場」として、地域の共有生活スペースが拡大している
(例えば、共有する「食事の場」としての屋台村や、若者から高齢者まで集うセンター)
- 住民が交流する共有スペースは自動車に頼らない街が完成している
- 単身(高齢)世帯が増えており、衣食住を提供するケアユニットとしての家族機能は衰えているものの、共有スペースを核とする緩やかな絆(weak-ties)が張り巡らされ疑似家族的なつながりが増えている
- 地域の人々の参画による地域の人々のための地域活性化
- 「家族」を支える仕組み
 - 遠距離交信システム、よりバーチャルな交信技術が発達しており、離れていても繋がっている

キャッチフレーズ：「居場所」と「絆」

個人・家族のつながり

地域・社会とのつながり

ライフスタイルのイノベーション (働き方を含めた社会への参画の保障)

- 「正規－非正規」といった就労形態による身分の2分が解消され、賃金や待遇が平等に。
- その上で、国民すべてがフレキシブルな就労が選択可能に。
「フレキシブル」には、時間、日数、働く場所などの自由が含まれる(全国民、非正規化)。
- IT技術のさらなる発展により、「場」にとらわれない「職」が可能となっている。
- 長時間労働は過去のものとなっている。
- これらの徹底により、逆に「育児休暇」などの子育てや介護に関する「特別な配慮」は不要となる。仕事を調整することによる収入減少は、子ども手当等の社会手当で補填される。
- 子育てや介護以外にも、ボランティア活動、地域活動や創作活動、生涯教育などに時間を費やすことが可能となっている。
- 家事・介護などの無償労働が軽減されている
 - 外部化(外食など)
 - 介護テクノロジー、家事テクノロジーなど家庭と仕事の両立支援の技術発展(ハード&ソフト)が進み、日本のみならず、これから急速に高齢化を迎えるアジア諸国に向けて輸出産業となっている。
- 職場や学校でのストレスによる身体的・精神的負担が少なくなり、人々の健康度は改善。

キャッチフレーズ: ライフスタイルのイノベーション
「参画」

社会の持続可能性の向上

- 本気の少子化対策 と同時に、外国人に開かれた日本となっている。
- 「安全・安心の国」としての、日本ブランドが世界に浸透しており、子育て期や老後はもちろん「住む場所」としての日本の魅力が高まっている
- 政府財政の収支がバランスしている
- 地球規模の環境問題が改善に向かっている
- 地球規模の食料、水、エネルギーなどの資源活用がコントロールされているとともに、日本の各都市圏の食料、エネルギーの自給率が100%近くなっている。
- どの世代の政治参加も活発となっており、投票率や議員率などでも若い世代が活躍している。

キャッチフレーズ： 安全と安心